

「アメリカの学習」に地図を使おう

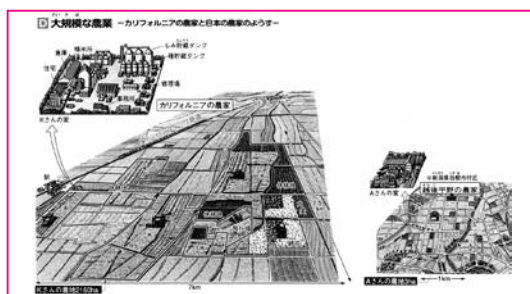
山形県真室川町立及位中学校 小 関 明

帝国書院「中学校社会科地図 初訂版」(以下、地図帳) p.53～57はアメリカ合衆国の拡大図、鳥かん図、資料図の編成となっているが、これを利用して、アメリカの農業についての展開例を述べたい。

アメリカの農産物や食品は、日本のスーパーマーケットなどでもよく見られる。また、昨今の牛肉の輸入問題等、アメリカの農産物に関する生徒の関心も高く、意欲的に課題を解決する学習の展開が期待できる題材でもある。

ここでは、大規模な農業(企業的な経営)と適地適作等により、生産費(コスト)を下げ、国際的な競争力を高め、「世界の食料庫」として、世界一の食料輸出国になっているアメリカの農業の特色について理解させたい。

とを理解させたい。地図帳p.55の資料図Dでカリフォルニアの農家と日本の越後平野の農家を比較させ、農地の広さ(約700倍)や施設のちがい(大型機械、飛行機、タンク等)に着目させ、検証させる。米10kgあたりの生産費を具体的な数字で提示すると、さらに実証的にとらえさせることができると思われる。



「中学校社会科地図 初訂版」 p.55



「中学校社会科地図 初訂版」 p.55～56

導入の場面で、地図帳p.55～56の鳥かん図から、小麦貯蔵庫と輸送手段である鉄道や船舶等に注目させ、穀物を海外に輸出することを目的とする穀物商社の存在に気づかせる。そして、統計資料やグラフなどをもとに、おもな農産物の輸出货量に占めるアメリカの割合を示し、学習課題「(例)なぜ、アメリカは世界の食料庫といわれるのか?」を設定する。

次に、授業における展開部の取り扱いであるが、ここでは、生産コストを下げる理由の一つとして、大規模な農業経営をしているこ

もう一つの特色である適地適作であるが、鳥かん図、資料図A気候・B農業地域を活用し、自然条件にあわせて、その土地に最も適する農作物を栽培していることを理解させる。その際、西部で育った子牛がとうもろこし地帯で集中的に肥らされ、市場に出荷されることに気づかせることもできる。

今後も、地図や資料を活用し、「調べたらわかった、発見した」といった学習活動を大切にしていきたいと思ったところである。